

現高2生へ

2014年に向けての【学習アドバイス】 地学I

今回の試験の大問は、昨年と同様、A・Bの区分に統一されています。出題形式を工夫してより多くの知識を問うという方針には、変わりありません。昨年から2科目まとめて受験する形式に変わったことから、受験者の減少により平均点が高くなりましたが、今年も問題の難易度に対して高めの平均点となることが予想されます。出題形式を工夫していく傾向は、今後も続くと思われるので、それを踏まえた上で、来年に向けて具体的に今から何をしておくべきかを考えてみましょう。

● 地学Iを選択する受験者層

地学Iを受験科目に選択する可能性があるのは、理系の場合、地球科学系の受験者、志望学科に関連する科目以外にもう1科目必要な受験者、文系の場合、国公立大文系受験者などが考えられます。地学は点をとりやすいという情報を耳にする人もいますが、油断すると、やや難しい問題を出され、思わぬ失敗をします。すでに地学Iを受験科目に決めていて高1ですすでに地学Iを終えているという現高2生がいまできることは何でしょう？

● いまから準備できること

センター試験は、教科書で扱うすべての分野についての理解度を確認するものです。したがって、学校で詳しく扱っていない部分は自分で補っておかなくてはなりません。まず、夏までに一通り、探求活動を含めて教科書を丁寧に読み込んでおきましょう。特に図や表に関しては、ただ眺めるだけでなく、それらの意味をじっくり考えてみて下さい。教科書を一通り読み込んだら、センター対策用の問題集(自分の気に入ったものでよいがなるべく全分野を網羅しているもの)を1冊用意して、夏休み中に仕上げましょう。2学期から直前までは、他の科目とのバランスを考えながら、予想問題集や過去問で演習を行います。以下、大問ごとに、特に注意すべき点をまとめておきます。

● 大問ごとの傾向と対策

第1問 地球の概観や内部構造などに関する分野ですが、今回は地球の鉛直構造と地殻の均衡(アイソスタシー)に関する出題です。分野ごとの頻出パターンの問題を、練習しておく必要があります。

第2問 火成岩の分類と化学組成、鉱物の結晶構造、マグマの性質、変成岩の性質などこの分野も幅広く出題されます。計算は少ない分野ですが、難しい正誤問題が出題される可能性があるため、教科書にまとめられている表も含めて丸暗記するぐらいの気持ちで臨んで下さい。

第3問 地質図と地質断面図は、毎回出題されている頻出分野です。地質図では、地層の走向や傾斜などを読み取る空間把握の力が試されます。また、地質断面図では過去に複雑なものが出題されていますので、よく出題されるパターンの問題は一通り解いておきましょう。

第4問 気象・気候、大気、海洋などの分野が出題されます。地球全体に影響するものから、フェーン現象などの局所的な現象も問われます。この分野は、過去に計算問題も多く出題されており、教科書をきちんと理解していれば特に難しいものではありませんが、日頃から疑問点を先送りにせず、その都度調べて解決しておくことが大事です。

第5問 天文分野は、惑星の特徴や運動、恒星の性質や進化、銀河の性質やハッブルの法則などが問われます。今回のAの間1・問2やBの間6などの問題では、恒星の進化に関して総合的な理解が必要です。教科書を読み流すだけでなく、自分の知識として定着させることが重要です。